

慶應義塾志木高等学校

開設 75 年事業趣意書



2021-2023

01 慶應義塾志木高等学校開設 75 年にあたり

慶應義塾志木高等学校長

高橋 美樹

慶應義塾志木高等学校は、2023年に開設75年を迎え、その先へと続く教育方針を象徴する標語を、「多様な『交際』ですすめる『数理と独立』の教育」と決めました。

「数理」は、実証科学・応用科学(自然科学のみならず人文科学、社会科学を含む。)であり、「実学」に他なりません。実証科学に知的・精神的な「独立」が不可欠なことは明らかです。

また、本校の教育方針にいう「交際」は、「人間(じんかん)交際(こうさい)」(society)に由来し、慶應義塾内の交際、地域における交際、外国との交際、更にはこれらの交際を通じた、「智見の交易」までも含みます。

『数理と独立』の教育」というとき、その本質は、真理原則の飽くなき追究と、その応用にあります。このような実学重視、独立心を養成するような教育をより一層進めるため、少人数・適正規模教育も推進してまいります。

本事業は、慶應義塾の一貫教育を担う高校として、長い将来を見据えた教育事業です。皆様のご理解とご支援のもと、開設75年事業に関わる資金の一部につきまして、広くご協力賜りたく、心よりお願い申し上げます。

慶應義塾長

長谷山 彰

志木高等学校のキャンパスには樺の大木が林立しています。天に向かってまっすぐに伸び、巨木に成長する樺は昔から武蔵野の景観を象徴する植物であり、若者がすくすくと成長して行く姿に重ね合わせて大切にされてきました。武蔵野の面影を残す豊かな自然環境の中で、志木高生は伸び伸びと学問や芸術、スポーツ活動に才能を発揮しており、多くの卒業生が志木高には自由があふれていたという感想を述べています。

志木高はこれまで、日本で唯一24の言語を学べる外国語教育に象徴されるように、グローバル化の時代を先取りする多様な学びと、慶應義塾伝統の「半学半教」の精神に基づき、教員が自ら学びながら教えることを楽しむ独創的な授業を柱に、生徒の自由と主体性を重視した教育を展開してきました。これによって物事の本質を見抜く科学的合理精神や、異文化を乗り越えて人間関係を作り上げる力を身に着けた卒業生は、社会のあらゆる分野で活躍しています。

この度、慶應義塾志木高等学校は創立75年を機に「多様な『交際』ですすめる『数理と独立』の教育」を理念に掲げ、教育の向上をめざすさまざまな記念事業の計画をスタートさせました。それらはいずれも慶應義塾志木高等学校の未来の礎となる大事業です。記念事業を成功に導くために、ぜひ皆様のご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

志木会(同窓会)会長

坂上 隆彦 (23 期)

従来に比べ大きく様変わりした昨今の世の中、慶應志木会各位には夫々のスタイルにて日々過ごされていることと存じます。そして何が起ころうとも時代は進み我々が母校、慶應義塾志木高等学校は1948年(昭和23年)慶應義塾農業高等学校として開校以来いよいよ75年を迎え、より先進的な教育を行う為、多目的棟の建設という記念事業を行う事となりました。

古きは、埼玉県北足立郡足立町大字志木の地、東武東上線志木駅前の武蔵野の雑木林の中にポツンと建っていた校舎、その母校が今では埼玉県で最も評価を受ける高校の一つとなった事は我々卒業生一同の何よりの誇りであるかと推察致します。

その母校を時代の変遷とともに更なる進化、発展を目指す為起案された75年事業、ここまで母校を発展させて頂いた先輩各位への感謝、又今後も輩出されていく後輩各位への支援、我々を教育頂いた母校への返礼、今後も続いていくであろう志木高の歴史の1ページにも記すことにもなるかと思う次第であります。

何卒会員各位、関係者各位の物心両面にわたる大いなる温かいご支援をお願い申し上げます。

募金委員長

伊藤 雅俊 (16 期)

2023年5月、志木校に創立75年の誕生日がやってきます。

これまでの長い間、志木校を支え、発展を繋いだ数々の先人達、先生達、先輩達の大変なご努力に、改めて心から感謝を申し上げます。そして、益々先進していくであろう「未来に続く志木校づくり」に有益な新棟建設のために、これから建設募金の委員会が立ち上がります。

志木校の歴史の中では、時代時代の新しい先端の考え方とその施設を導入しながら、幅広く教育の機能が強化され続けて来ました。その努力の長い積み重ねが、今日の志木校の発展を支えています。

しかし、一方では社会の動きは速い。創立75年のこの機会に、更に「幅広く教育活動ができる多目的棟」を校内に建設するために、我々は1万6000人もの慶應志木会メンバーで募金を行い、有益な教育機能の充実の支援を図っていきます。

今回、私が志木会に推薦されまして、募金委員会の委員長を拝命しました。皆様からの強い力を頂いて、創立75年のこの機会が、大きな成果となること、更には次の100年に向かつての意志を繋ぐ、素晴らしい力になることを期待しています。

皆様方の募金へのご助力ご支援を、どうぞ宜しくお願い致します。

慶應義塾常任理事

大森 正仁

「志木高という存在」

常任理事として一貫教育校を担当して以来、国際化と少人数・適正規模教育を目標に掲げて来た。志木高はすでにこれらを授業及び課外活動において多年に渡り実施して来ており、さらに、この度の設立七十五年記念事業にもその趣旨を組み込んでいただいている。

志木の地で男子の高校生が3年間を過ごし大学へと進学することは、他の一貫教育校と同じであり違いもする。慶應義塾の教育方針にのっとり、独立自尊の気風を涵養することは同一であるが、広大で緑豊かな校内で、教職員、保護者、そして卒業生に見守られながら志木高らしい生活を送ることは、そこで学生生活を過ごした者のみが語ることのできる経験であると思う。

在校生は自身が志木高そのものであり自らが何であるかを問う機会はないのかもしれない。卒業生は思い出の中の、保護者は子供の通うところの、教職員は勤務する場としての志木高を感じていることと思う。七十五年という年月により伝統が創られ、壊され、乗り越えられて常に新たな志木高という存在がある。そのような営みを続けて行くことに多くの期待と夢がある。

次の世代を担おうとする諸君が学ぶ場としての志木高がさらなる発展をすることを心より願い、関係諸氏のこの度の記念事業への賛同を切に乞うところである。

慶應義塾常任理事(前校長)

高橋 郁夫

開設 75 年事業への取り組みが開始されるとのこと、誠に喜ばしい限りです。周知のとおり、本校は、日本の電力産業の発展に寄与した塾員の松永安左エ門が慶應義塾に寄贈した、財団法人東邦産業研究所の土地と建物を活用し、1949 年に慶應義塾農業高等学校としてスタートしました。その後、1957 年に普通高校に転換、同時に慶應義塾志木高等学校と改称され、現在に至っています。

私は、2012-2016 年の 4 年間、校長を務めさせて頂きました。赴任前、志木高生は、真面目でおとなしい学生が多いと聞いておりましたが、やんちゃな生徒もそれなりにおりました。また、教職員と生徒の距離が近く、とてもアットホームな学校だと感じていました。かつて、松永が郷里でしていたように教員に対して深々とお辞儀をしたところ、慶應では同じ仲間なのだから、それは不要と福澤先生に教えられたと言われていますが、まさにそのような風通しのよさと半学半教の雰囲気は本校にはありました。

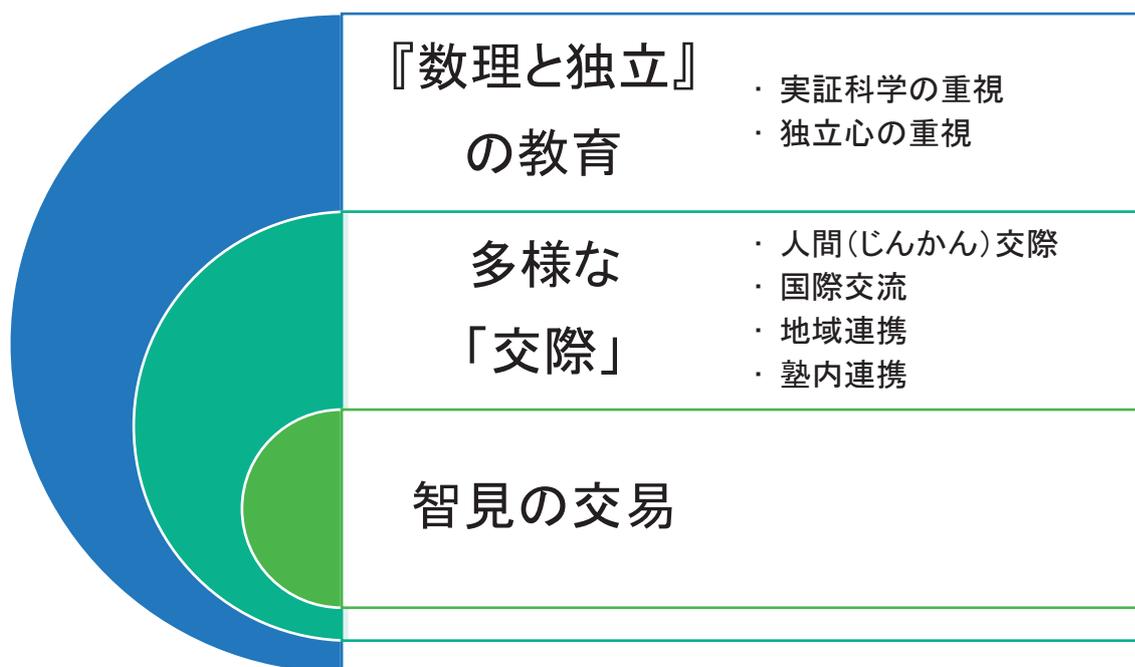
近年、本校は、正課および部活動はもとより、国際交流や少人数・適正規模教育等の面で、めざましい成果をあげてきました。今回の 75 年事業のスローガンである、多様な「交際」ですすめる「数理と独立」の教育が、新設される多目的棟を舞台に展開されることを、大いに期待しています。志木校にも、後輩思いの卒業生や支援者がたくさんおられます。第 2、第 3 の松永のような方々が多数現れ、母校の更なる発展に貢献くださることを切に願っております。

02 多様な「交際」ですすめる「数理と独立」の教育

2023年に開設75年を迎え、それ以降の将来へと続く教育方針を象徴する標語として、「多様な『交際』ですすめる『数理と独立』の教育」を掲げ、その教育を実践していきます。

このような教育方針は、現在本校で行われていること、即ち「国際交流」、「地域連携」そして「実証科学・応用科学」重視の教育を体系化し、フレーズ化して、今後進むべき方向を示したものです。そして、教育方針に掲げるような取り組みは、少人数・適正規模教育においてこそ、その効果を最大限に挙げると考えます。

■ 多様な「交際」ですすめる「数理と独立」の教育



03 「数理と独立」の教育

本校の教育方針中に用いた「数理」も、実証科学・応用科学(自然科学のみならず人文科学、社会科学を含む。)に他なりません。「実学」ではなく「数理」という言葉を用いるのは、晩年の『福翁自伝』中に「教育の方針は数理と独立」という記述があるため、また、世間一般の道具的な「実学」と区別するためです。

■ 実証科学…

その根幹をなすのは福澤の言う「真理原則」すなわち科学的な理論・仮説を構築し検証すること、あるいは実験です。福澤は『文明論之概略』(巻之一第一章、第三章)で、勇気をもって自説を主張することの重要性を述べ、また、実証の重要性を述べています。そこに知的・精神的な「独立」が不可欠なことは明らかです。このような独立心を養成する教育も、今後一層、進めていきます。



04 多様な「交際」

本校の教育方針にいう「交際」は、前述の「人間交際」のみならず、慶應義塾内の交際、地域における人と人の交際、外国との交際、さらにはこれらの交際を通じた、「智見の交易」までも含みます。

本校の教育方針中に「交際」を取り上げるとき、その1つの目的は、「智見の交易」を実現することにあります。「多事争論」「異説争論」(批判的討論)を重視するというとき、そこに多様な「交際」が必要なことは言うまでもありません。

■ 国際交流

外国との「交際」には、更に別の意図もあります。福澤は『西洋事情』(初編 卷之一)において、「数理と独立」の教育を実現する上で、諸外国の政治的経済的社会的風土や歴史を理解することの重要性を強調しています。本校の国際交流(交際)はそれに倣うものです。



05 少人数・適正規模教育

『数理と独立』の教育というとき、その本質は、真理原則の飽くなき追究と、その応用にあります。そこで必要なのは、批判的討論と経験に照らして理論・仮説の真偽を批判的にテストすることです。

批判的討論や批判的テストの訓練あるいは実験に、少人数・適正規模教育が有益なことは論を俟ちません。私たちが新たに掲げた教育方針は、少人数・適正規模教育の意義を謳うものでもあるのです。



06 教育改革プログラムの一環としての新教育プログラム

『数理と独立』の教育を実践するために、教育改革プログラムを実施していきます。既に、少人数・適正規模教育については端緒についてはありますが、それ以降も計画的な改革プログラムを実施していきます。

■ 教育改革プログラム

第1期(2017年度～2022年度)

- 新教育プログラムの具体化策、策定
→カリキュラム検討委員会主導のもと、少人数・適正規模教育を核とする教育スタイルの検討と共に2020年度本格始動の新学習指導要領を取り込んだ新たな教育プログラムを策定
- 既存施設の発展的活用
→既存施設内に少人数・適正規模教育用の教室を増設。新学習指導要領を取り込んだ新しい形の教育スタイルの試行とそのフィードバックに基づく継続的開発を進行。

第2期(2023年度～2028年度)

- 「多目的棟」を場とする「数理と独立」の教育実践
→少人数教室群を利用した多様な少人数・適正規模教育プログラムの実践、小ホールを利用した大規模教育の実践と評価、ならびに芸術発信基地としての実践
- 少人数・適正規模教育の評価
→小規模教育と大規模教育の並行実施とその評価を積み上げ、志木高として更なる独自教育スタイルを追求する。単なる量的少人数・適正規模教育に止まらない、質的教育方法と効果の追求。
- 第3期に向けての事前準備
→学校建物全体のリニューアルを想定した場合の、将来に向けての理想的教育スタイルの追求と要求される建築物としてのスペックの徹底評価。

第3期(2028年度～)

- 志木高が目指す教育施策の具体化とそれを実現するための校舎群設計(創立80年)
→向こう50年を見据えた慶應義塾一貫校としての志木高の教育スタイル、立ち位置を再検証。
それに基づいて、どのような施設群が要求されるか検証。
- 実現計画の評価
→100年に1度の大規模な施設改修に先立ち、100年後を見据えた教育を実現する施設として問題ないかを徹底検証。

07 「開設 75 年事業」…新教育プログラムのための多目的棟の建設ほか

『数理と独立』の教育を実践する場として、新たに多目的棟を建設します。また、これに合わせた記念式典・行事を行い、記念誌を発行します。

■多目的棟は、新たな「交際」を生み出す豊かな実験場となります

○芸術を始めとするさまざまな発表の場

→外部施設を利用して、地域に還元していた芸術鑑賞の場を自らの施設から提供

○国際交流の基本は自国の文化の理解

→日本文化を理解する象徴的な場として、「茶室」を用意。茶道以外のさまざまな日本文化を紹介

○少人数・適正規模教育をより一層極めるための小教室群

→語学などを中心に、より高い効果が期待できる少人数・適正規模教育実践の場を用意

○文化発信の場

→本校出身で、グラフィックアートで世界的な活躍を見せる大山エンリコイサム氏の作品を鑑賞できるフロアを設置。型に囚われない可能性を象徴。



個展「Kairosphere」
於：ポーラ美術館

卒業制作
於：慶應義塾志木高等学校



08 「慶應義塾志木高等学校開設 75 年事業資金」募金について

『数理と独立』の教育を実践するために、志木高等学校独自の資金を積み立てており、引き続き、募金を募ってまいります。

この資金により、新教育プログラムを実践するのに必要な場として、「多目的棟」を建設し、新たな『交際』を生み出すさまざまな機会を創出します。

■新教育プログラムを実現できる人材を育成します。

これまで以上に、国内・海外研修など、新たな知識、経験を身につける事業への参加を推奨し、新教育プログラムを積極的に推進できる人材の育成を進めていきます。

■新たな教育施設「多目的棟」を建設します。

多目的棟を教育の場として十全に活用するため、2020 年から本格化する学習指導要領改訂に同調させ、かつ本校としての独自色を載せた教育プログラムを順次発表、実現していきます。

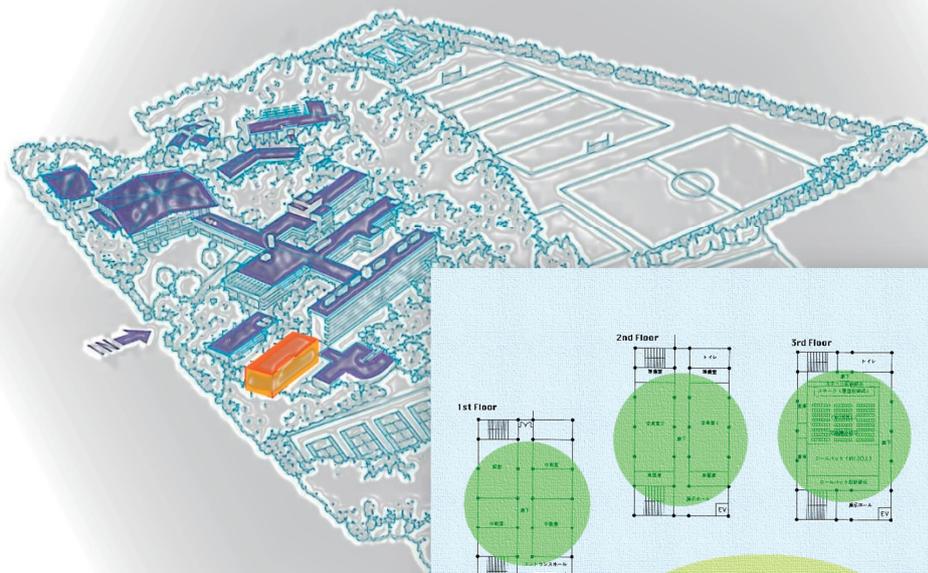
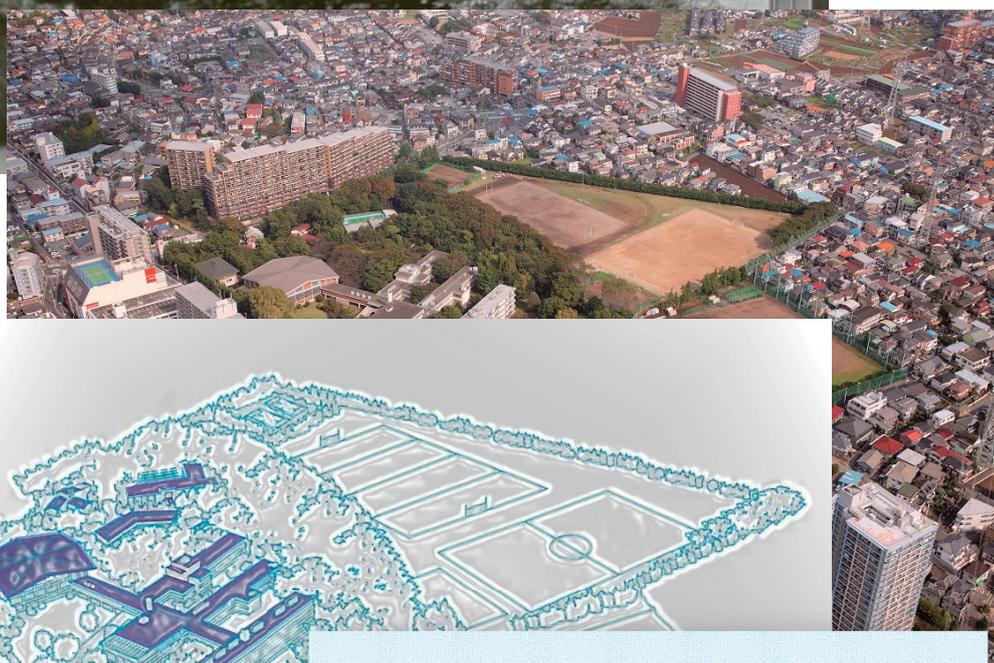
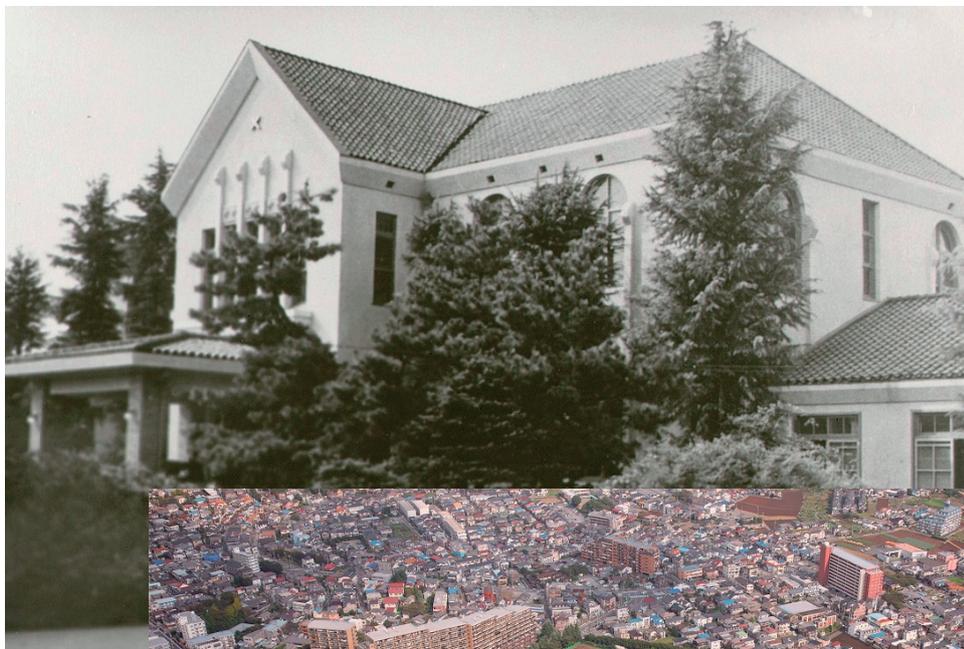
■開設 75 年記念式典を挙ります。

多目的棟のお披露目を兼ね、多目的棟を利用した記念式典と、それに伴うさまざまな催しを行ない、新教育プログラムの可能性の一端を紹介していきます。

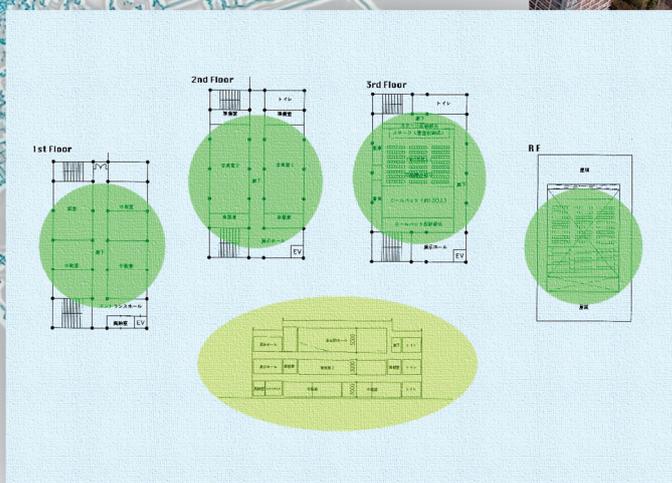
■開設 75 年記念誌を刊行します。

新教育プログラムを立ち上げるには、これまでの教育の評価が必要です。開設 75 年を一つの区切りとして、これまでの教育の総括を行い、新教育プログラムの可能性を探る記念誌を刊行します。

09 志木高等学校の「過去」、「現在」、「未来」



Our Future after 2023



10 慶應義塾志木高等学校開設 75 年事業募金のご案内

志木高等学校開設 75 年事業への皆様のご賛同、ご支援をお願い申し上げます。

■募金概要

- 募金名称 慶應義塾志木高等学校開設 75 年事業募金
- 募金目的 慶應義塾志木高等学校開設 75 年事業資金として

- 募金目標額 2 億 9 千万円
- 募金期間 2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
- 募金対象 個人、法人、団体(有志団体等)

皆様のご厚志は、事業の貴重な資金として有効に活用させていただきます。

■お申込みについて

- 一口 1 万円(できましたら三口以上)のご協力を賜りますようお願い申し上げます。
- 払込方法

●個人としてお申込みをいただく場合

郵便局(ゆうちょ銀行)

- ・慶應義塾所定の「振込用紙(兼申込書)」をお使いのうえ、郵便局の窓口または ATM でお払込みください。

クレジットカード(インターネット募金)

- ・慶應義塾志木高等学校ウェブサイト(<https://www.shiki.keio.ac.jp/>)経由からお申込みいただけます。海外からのご寄付の場合には、上記ウェブサイトからクレジットカード決済をご利用ください。

●法人・団体としてお申込みをいただく場合

ご案内をお送りいたします。お手数をおかけいたしますが、慶應義塾基金室までご連絡ください。なお、事業および募金の詳細については、慶應義塾志木高等学校までお問い合わせください。

■ご芳名の発表

ご寄付を賜りました方々のご芳名は、ご希望により慶應義塾の機関紙である「三田評論」に金額とともに掲載させていただきます。

■ご寄付者の顕彰

慶應義塾志木高等学校開設 75 年事業募金への寄付の累計が 30 万円以上の個人・法人・団体は、そ
のご厚志への感謝のしるしとして、新多目的棟内に顕彰銘板を作成し、ご芳名を掲げさせていただきます。

●寄付金に対する免税措置について(2021 年 4 月現在)

この寄付金は慶應義塾への寄付金として税制上の優遇措置(寄付金控除)を受けることができます。

●個人の場合

(1) 所得税の寄付金控除

確定申告の際、寄付金の選択により、「税額控除」あるいは「所得控除」を受けることができます。確定申告の際に必要な、領収証と寄付金控除に係る証明書(写)は寄付金の入金後、慶應義塾よりお送りいたします。

①「税額控除」年間所得額の 25%を限度として、その年の寄付金の合計額から 2 千円を引いた金額の 40%が所得税額から控除されます。

②「所得控除」年間総所得額の 40%を限度として、その年の寄付金の合計額から 2 千円を引いた金額が、その年の所得から控除されます。

(2) 個人住民税の寄付金税額控除

慶應義塾を「寄附金税額控除対象法人」として条例で指定されている自治体(東京都、神奈川県、埼玉県ほか)では所得税の確定申告をすることにより、個人住民税の寄付金税額控除を受けることができます。

●法人の場合

特定公益増進法人に対する寄付金として特別損金算入限度額まで当該事業年度の損金に算入することができます。また、日本私立学校振興・共済事業団を通じた「受配者指定寄付金」制度により寄付金全額を当該事業年度の損金に算入することも可能です。

●相続財産について

相続された財産を相続税申告期限内(ご逝去された翌日から 10 ヶ月以内)に慶應義塾に寄付し、税務署に申告することにより、そのご寄付は相続税の課税額から除外され、非課税になります。

なお、文部科学省の「相続税非課税対象法人の証明書」が必要で、発行するのに約 2 か月を要しますので、お早めに基金室までご相談ください。

個人・法人の税制上の優遇措置(寄付金控除)については下記のサイトをご参照ください。

<https://kikin.keio.ac.jp/menzei/>



慶應義塾志木高等学校

ご連絡・お問い合わせ先

■事業・募金について

慶應義塾志木高等学校 開設75年事業担当

〒353-0004 埼玉県志木市本町 4-14-1

TEL 048-471-1361 (平日 9:00～16:30) / FAX 048-471-1974

E-mail shiki-soumu@adst.keio.ac.jp

<https://www.shiki.keio.ac.jp/> (本校 WEB サイト)

■法人・団体としての申し込み、免税措置について

慶應義塾基金室

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

TEL 03-5427-1717 (平日 9:00～17:00) / FAX 03-5427-1546

E-mail kikin-box@adst.keio.ac.jp